

## 神奈川県労働局 横浜北労働基準監督署 丸山龍太郎



私の友人には、長時間に及ぶ夜通しのアルバイトを続けたことによって、脳疾患を発症した人がいます。生活の糧を得るために仕事をしているにもかかわらず、仕事がかき付けで健康を害することはあってはならないと思いました。

このような過重労働によるものだけではなく、労働に起因する全ての災害が発生しないような労働環境づくりを通して、労働者の健康を守る使命を担っている労働基準監督官になりたいと思い、志望しました。

私は、試験の1年前から勉強を開始しました。

労働基準監督官の採用試験には大きく分けて教養試験と専門試験があり、教養試験は数的処理のウエイトが高いため、毎日数問ずつ解くことを心がけていました。

私は理系出身であるため、B区分(理工系)を受験しました。B区分の専門試験の問題は、理系知識の基礎的なものが大半です。

そのため、高校や大学で学んだ内容を復習した後、過去問を繰り返し解いていました。様々な問題集に手を付けるのではなく、同じ問題集を繰り返し解いていました。また、公務員試験の試験科目・範囲は膨大なので勉強しない科目を作りがちですが、私はそのような科目を作らない一方で、科目の中で過去に出題がないような分野は敢えて勉強せず、範囲を絞って勉強しました。

現在は、日々窓口・電話での相談対応や事業場に立ち入って労働条件・安全衛生についての行政指導を行っています。また、労働災害が発生した場合は現場での原因調査や、特別司法警察員として被疑者やその関係者の取り調べ、証拠物の搜索や差押などの事件捜査も行っています。

採用後、労働基準監督官は採用区分や経歴などにかかわらず、監督指導業務に就くことになります。

私は大学での専攻は生物でしたので、法律を学ぶ機会がなく、労働基準法などの法令の知識は全くなかったため、法律を扱う仕事をすることに不安を持っていました。

しかし、1年目には全国の新任労働基準監督官を集めて行う合計3か月の中央研修があり、切磋琢磨し合える仲間と共に法律を一から学ぶことができます。また、配属先の労働基準監督署においては諸先輩の監督指導に同行し、監督手法を学び、労働相談などでわからないことがあったときは助言指導してもらいます。この時に学んだ経験は、現在の監督指導業務に活かされています。

理系で法律が全く知らない人でも研修や職場環境が充実しているので、心配することなく労働基準監督官を目指していただきたいと思います。

この仕事に少しでも興味を持っていただけたのなら、労働行政の第一線で一緒に働きませんか。



## 栃木労働局 足利労働基準監督署 南川 萌菜

私は大学卒業後、民間企業に勤務しました。そして働く中で、賃金不払残業、経営不振による賃金の引き下げ、非正規雇用、解雇などに直面し、約3年間で3社の転職を重ねた末に無職となった私は、公務に就きたいと強く思い、試験勉強を始めました。

しかしその後、通学していた予備校で労働基準監督官の採用説明会に参加し、初めて労働基準監督官という仕事があることを知りました。そこで、労働者が安心・安全・健康に働く環境を作るために働く労働基準監督官の使命に共感し「私も労働基準監督官として使命達成の一助になりたい」と思い、志望しました。

私は、大学の理工系の学部で建築を専攻していましたが、法文系のA区分で受験しました。筆記試験の勉強期間は約半年間でした。勉強は目標量を決めて行い、メリハリを持って勉強することを心掛けました。勉強を始めてから最終合格までの期間は思った以上に長丁場でしたので、適度な休みは必要だと思います。

現在担当している業務は、様々な事業場へ臨検監督し、法定労働条件の確保や産業安全・労働衛生の確保のための指導をしたり、窓口などで賃金不払や解雇等の労働相談を受けたりしています。



中には、法律の趣旨についてなかなか理解を得にくかったり、厳しい対応をされたりする会社もあり、その時は言葉に窮して苦しい思いをしたこともありました。しかし、毅然とした態度で、監督指導を行う理由や法令を遵守していただくことで会社にも利点があることなどについて懇切丁寧に説明することで、会社が監督指導の目的などを理解していただき、法律違反については是正していただいた際は、やりがいを感じます。仕事で問題にぶつかったとしても、その都度上司に相談でき、助言して下さる心強い環境があります。また、約3か月に及ぶ中央研修で得た同期という大切な仲間が、心の支えになってくれています。

労働基準監督官の仕事は、一つ一つの問題に応じた対応が必要となるので、常に考え、勉強する姿勢が必要だと思います。任官して1年半で至らない点はまだ多い私ですが、この姿勢を忘れずに日々職務を行っています。

労働基準監督官は転勤をしますが、それがなければ訪れることもなかった土地に住めることは、私の人生にとって、刺激を与えてくれる良い機会となっています。また、結婚し、家庭と仕事を両立している女性労働基準監督官も沢山いらっしゃいます。これを読み、少しでも労働基準監督官の仕事に面白みを感じた方、労働者が安心・安全・健康に働ける環境を作るために、是非一緒に働いてみませんか。

## 宮城労働局 仙台労働基準監督署 高石哲子



私が労働基準監督官を目指したのは、多くの人の役に立つ仕事がしたいと思ったからです。人の役に立つといっても様々ですが、労働は人生において多くの時間を占め、豊かな生活の基盤であるということから、私は「人の役に立つ＝安心して働ける労働環境のために働くこと」だと思い、労働基準監督官を志望しました。

労働基準監督官の採用試験は科目数が多いので、どの科目をいつまでに終わらせるかという長期的な計画を立てて、一日についてもタイムスケジュールを決めて満遍なく受験科目に触れることを心掛けていました。また多くの問題集に手を出すのではなく、同じ問題集を繰り返し解くことで知識を定着させるように勉強していました。

1年間の研修期間を経て、現在は窓口での相談対応、会社に対する監督指導、司法事件の捜査などを行っています。

仕事をしていて難しいと感じるのは、法律違反を会社に是正していただくことです。当たり前のことですが、法律違反を是正していただくにあたって、経営状況や設備、雇用の問題など違反をする理由や是正するための手段は会社ごとに多種多様であり、状況によってはすぐに理解していただけないこともあります。

現在も、日々悩みながら対応していますが、なぜ法律を守る必要があるのかを説明し、相手の話を聞きながら粘り強く理解を求めた結果、前向きに是正に取り組んでいただくようになったときにはとてもやりがいを感じます。特に、長時間労働に対し、指導当初は「忙しいのだから仕方ない」との姿勢を貫いていた会社の担当者の方が、業務量の見直しや人員増などによって長時間労働の解消に本腰を入れて取り組み、目に見える形で労働時間を削減していただいたときはとても嬉しかったです。

相談を受けていると、労働基準監督署への期待を感じるとともに、一方で最低限の基準である労働基準法を守っていない会社が多くあることも実感します。労働者の方や事業主の方の生の声を聞きながら仕事ができることも労働基準監督官の魅力の一つです。

労働基準監督官として、まだまだの自分ですが、期待に応えられるよう先輩方に助けをもらいながら職務に精一杯取り組んでいます。労働基準監督官に少しでも興味を持った方はぜひ、安心して働ける社会のために働きましょう。

